



秦野市市制施行70周年

第78回

秦野 たばこ祭

炎が舞い
光が奏でる

令和7年9月
27日 28日

70 市制施行 周年記念 絆ステージ 28日 17:15~



小山 雄大



美川 憲一

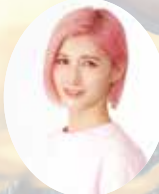


山口 ひろみ

はだのふるさと大使が各種行事に参加！



秦野たばこ祭エグゼクティブアドバイザー
吉田 栄作
28日 16:15~
はだのふるさとステージ



元女子プロ野球選手
加藤 優
27日 13:10~ オープニングパレード
16:00~ ジャンボ火起こし綱引きコンテスト



LUNA SEA 真矢
27日 16:10頃~ 御輿パレード
28日 16:10頃~ らんたん巡行



オープニングパレード
27日 13:10~

はだのブランドアンバサダー
シンカー・ソングライター
立石 純子

※主催者及び出演者の都合により、出演者や時間が変更になる場合があります。

秦野たばこ物語 ~秦野市の誕生と秦野たばこ祭~

秦野たばこ祭は、神奈川県たばこ耕作連合会の設立25周年記念事業として昭和23(1948)年に第1回が開催されました。これには秦野商工会議所が共催団体となっており、祭りに合わせて作成された秦野煙草音頭の発表会や歌舞伎劇、人形芝居などが行われています。昭和27(1952)年には秦野商工会議所が主体となり商店街を中心としたものになりましたが、耕作者の慰労という趣旨は大きく変わりませんでした。

秦野町は昭和30(1955)年に南秦野町、東秦野村、北秦野村、大字真田を除く大根村と合併し秦野市となりますが、これを契機にたばこ耕作者の祭りから市全体の祭りにしようという動きがみられるようになります。

2年の準備期間において各地の祭りを参考にした結果、昭和32(1957)年からは市が主催者となり、市の宣伝と観光客誘致による経済発展が目的とされました。内容も、各商店の店頭装飾のコンクールや農機具展示会、竹製品展示即売会、県警ブラスバンドなど、広く市民が楽しめるものとなっていきます。

市全体の祭りとなったことで、次第に行事も多様化し、華やかになっていきましたが、昭和59(1984)年の市内でのたばこの廃作を受け、その内容について検討が求められることになりました。昭和60(1985)年に設置された秦野市たばこ祭検討委員会は翌年に報告書をまとめ、「見る祭り」から「参加する祭り」へ発想を変え、民間主導にすべきと提言しました。

こうして第40回の節目となる昭和62(1987)年からテーマを「火」として、ジャンボ火起こし大会などの行事を新たに取り入れ、催しを多彩にして現在に至っています。

市制施行70周年を迎えた秦野市ですが、観光資源としての秦野たばこ祭もほぼ同じ年月を共に歩んできたのです。



ごあいさつ

丹沢から爽やかな風が吹きわたり、心地よい季節となりました。

秦野盆地に秋の訪れを告げる「第78回秦野たばこ祭」が、市民の皆様をはじめ、多くの事業所や関係機関の皆様の温かいご協力とご協賛をいただき、開催できますことを心からお礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれた本市は、江戸時代から葉たばこの名産地として知られ、「秦野葉」は優れた栽培技術で日本三大銘葉に数えられました。本市の発展に大きな役割を果たしてきた「葉たばこ耕作」は、昭和59年に300年余の長い歴史に幕を閉じましたが、先人たちが注いだ情熱は、人が変わり時代が流れても、私たち秦野市民の心に受け継がれています。

先人たちの情熱の火は、今年も「秦野たばこ祭」の炎となって燃え上がり、松明やらんたん、大輪の花火となり、秦野の宵の街を明るく照らします。

78回目を迎える今年は、市制施行70周年の節目の年でもあります。

伝統行事の「ジャンボ火起こし綱引きコンテスト」や「たばこ音頭パレード」などに加え、趣向を凝らした特別企画をご用意し、子どもから大人まで、参加する方もご覧になる方も心から楽しめる魅力あふれる祭りになってまいります。

「炎が舞い 光が奏でる 秦野たばこ祭」
多くの皆様のご来場を心からお待ちしております。

秦野たばこ祭実行委員会会長 秦野市長 高橋昌和



主催：秦野たばこ祭実行委員会

☎0463-82-5111
<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/>

後援：神奈川県・(公社)神奈川県観光協会・日本たばこ産業(株)・小田急電鉄(株)・神奈川中央交通(株)・東海大学・上智大学短期大学部・秦野市自治会連合会・秦野市商店会連合会・秦野市西商店会連合会・秦野商工会議所・(一社)秦野市観光協会・秦野市